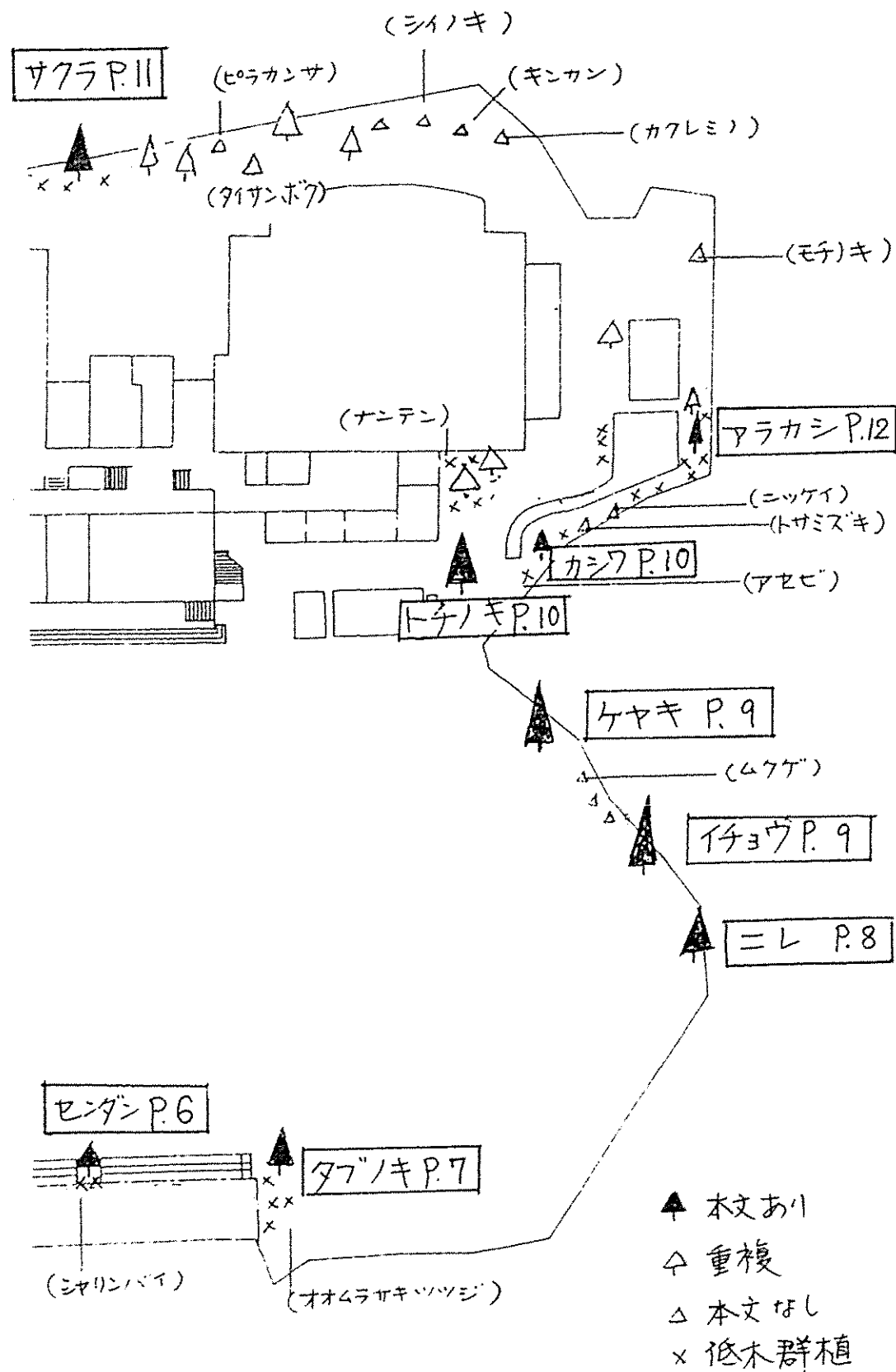
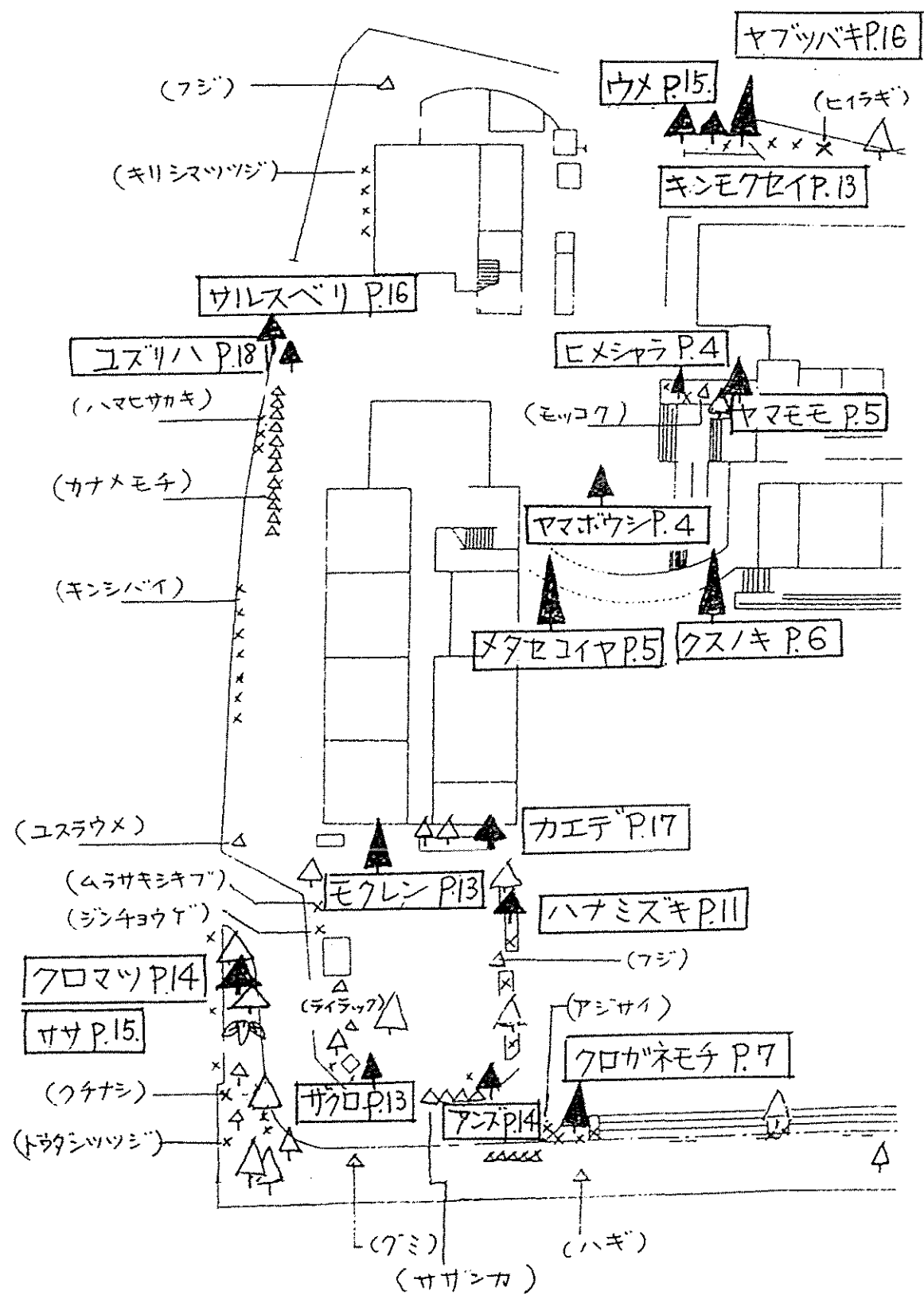


目次 (樹木配置図)



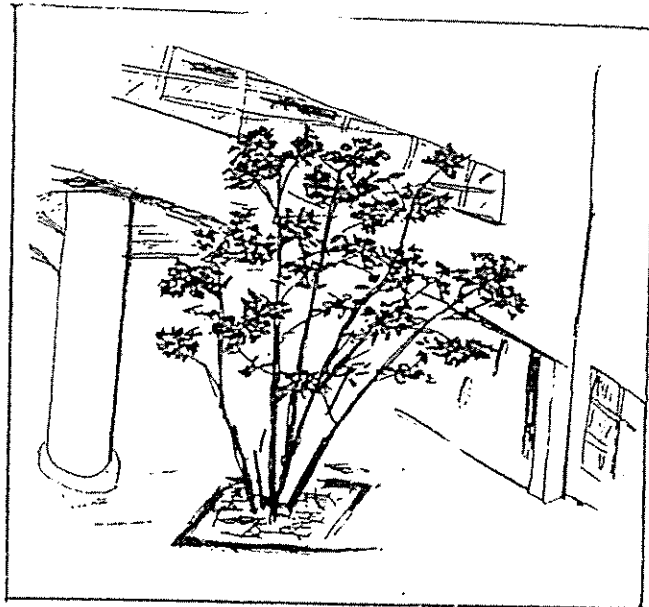
- ▲ 本文あり
- △ 重複
- △ 本文なし
- x 低木群植

学校便り 5月号 (6・5・2)

「学校だより」に折角いただく紙面ですから、何かシリーズで毎月お話しできるものがないか考えましたが、学校にある樹木の紹介をしてみたいと思います。

よくご存じのことかとは思いますが、来校の折りには探してご覧になり、お子さんとの話題にさせていただけたら幸いです。紙面に限りがありますので、全ては無理ですし、意を尽くすことも難しいと思います。もっと詳しいことや樹木に関する「ちょっといい話」などお手紙でもいただきましたら励みになります。

ヤマボウシ (山法師、山帽子)



職員玄関と昇降口の間に株立ち(幹が根元から数本に分かれて伸びている様)の美しい形の樹です。学校の顔とも言えるこの広場のことを子供達は「ヤマボウシ広場」と呼んでいます。

本州、四国、九州の山野に自生し、ミズキ科に属し、大きなものは2階建の家の屋根ぐらいで、8メートルの高さになります。

新緑から夏にかけて花を咲かせます。本当の花は、中央に集まった小さなものですが、その周りにこれを保護するための苞と呼ぶ花弁のような葉が付きま

す。まあ、全体を花と呼んでもさしつかえないと思います。花が集まって丸い様子は僧侶の頭、それを包む白い苞を頭巾に見立ててつけられた名前だろうと言われているようです。

ヒメシャラ

5年生が林間学校に行く箱根はこの樹の宝庫ですから、本来は霧深い山奥の優しい環境を好む樹木です。台風に乗って飛んでくる潮風などとんでもないと言ったところでしょうか。

野生で、大きなものは高さ15メートルにも達します。

ツバキ科に属しますが、白い小ぶりの花は一重の椿によく似ています。

シャラ(ナツツバキ)という樹もあるわけですが、それよりもすべてが繊細で美しいことから、「姫」の名をつけてもらえたということです。

職員玄関前。茶色を帯びた樹肌が実に滑らかで、「もうひとつのサルスベリ」と呼ばれるのも頷けます。

ウン、もうひとつ成育が悪いんだよな、これが。

学校便り 6月号 (6・6・1)

ヤマモモ (山百々)

職員玄関の横に、季節を問わず深い緑の葉を茂らせているのがこの木です。「百々」はたくさんの実をつけるという意味、6月には熟して食べられます。

1円玉ほどの大きさと、深い赤紫色をした実は、松の葉のような香を伴った甘酸っぱいものです。古くはジャムや酒を作ったりもしたようです。

ただし、この樹には雌雄があって、実はつけるのは雌株。そうです、あの銀杏ができるイチョウとできないイチョウがあるようにです。

3月末頃、3センチほどの花穂をつけるのが雄株、本校のヤマモモはこの花を咲かせています。

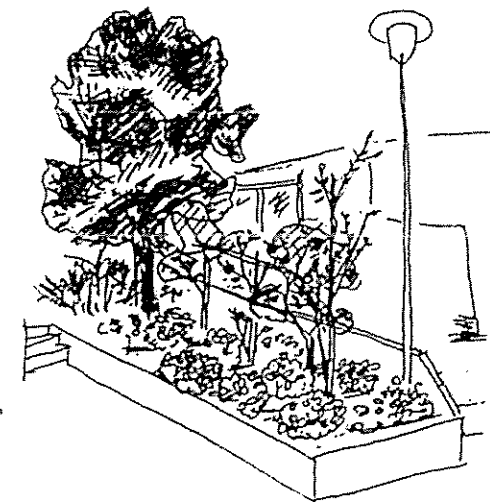
耐寒性は乏しく、日本では千葉県あたりが北限とのことです。

消防車の進入路脇にも2本、立っています。

ヤマボウシ広場からスロープの下を通過して運動場に出るとすぐ、2本の樹木が立っています。

メタセコイア

右側。この樹木が日本へ渡来したのは、昭和24年といいますがまだ半世紀にもなりません。もっとも、恐竜の時代から哺乳類が登場する頃までは、北半球各地に分布していた樹木ですから、日本にもあったものです。絶滅して「化石」でしか見ることができない植物だと思われていたこの樹木が、中国で

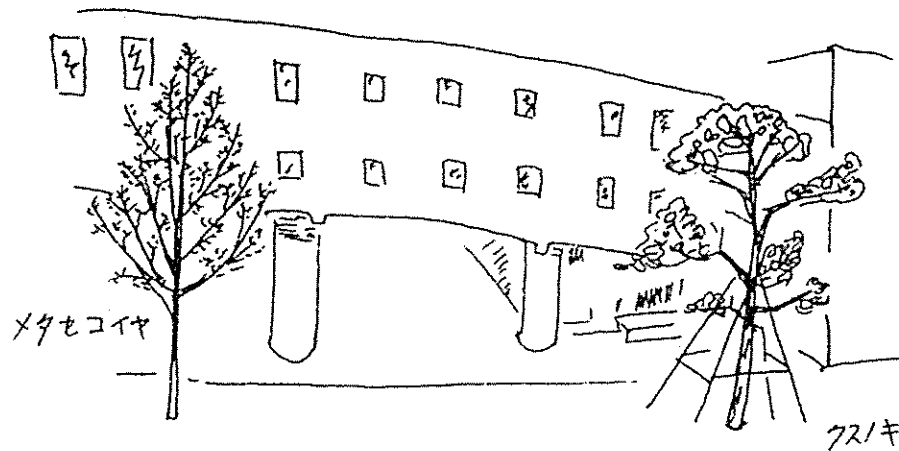


生存していることが分かったのも、日本に来る6年前のことです。

高さ35メートル、幹の直径3メートルもの巨木になるそうで、実際に目にすることができたら、自然の脅威と感じるに違いありません。

スギ科。あの柔らかく美しい新緑に杉のイメージはありませんが。

和名、アケボノスギ。成長が非常に速く、真っすぐに空に向かって伸びていく様子をよく表している名前ではありませんか。



クスノキ

左側。巨木になることメタセコイヤに負けません。

昔、中国では「巨なるもの神となす」として信仰の対象としたそうですが、そう言えば、たまに絞め縄を巡らしたクスノキをご覧になったことはありませんか。

春、木々が一斉に芽吹く頃、大木を覆う赤い芽立ちが鮮やかです。そして、夏の気配が感じられる頃、去年の冬を越してきた葉を一気に振り落とします。

耐寒性には乏しく、若木るとき、関東地方でも越冬のための防寒対策が必要です。また、大木の割りにはもろく、相当に太い枝でも上るのは危険です。

葉や幹から、ショウノウを採っていました。葉をよく揉んで嗅いでみてください。幼かった頃にお母さんの着物に漂っていた、あの懐かしい香りに遭えますから。

学校便り 7月号 (6・7・1)

センダン

運動場のバックスタンドの中頃に2本、この樹木が植えられています。

樹形に特徴があって、枝は高い位置で傘のように開いています。小ぶりの葉が長い葉柄に適当な間隔で並んでいますから、フワリと軽ろやかなパラソルの

イメージです。

「センダンは双葉よりかぐわし」とか。世に大成するほどの人は幼少のころから素質が窺われるものだ、という故事に言われる樹はジャクダンのこと。

けれども、この樹の花の香りも逸品です。ほのかに、上品に、甘く。

5月半ば、パラソルの上に淡い紫の花を咲かせました。遠目には霞のような花ですが、その一輪一輪は、小さくても凛々として力強い輪郭をもった花でした。

タブノキ

三世紀に書かれた「魏志倭人伝」に倭国に産する樹としてタブノキと思われる樹木のこと載っているそうです。福井県の貝塚から出土した食器がタブノキ製であるとか、「日本書紀」に浮宝(うくたから)と記されている船の材料としてタブノキと杉が挙げられているとか、はたまた「万葉集」にタブノキを詠んだものがあるとか、とにかく縄文の昔から人々の日常生活に深くかかわって来たものと思われま

す。海に沿った暖林帯の重要な構成樹木で、長い卵形をした葉は厚く表面はつやのある濃い緑色を、そして、裏面は茶色みをおびた薄い緑色をしています。

樹皮は粉末にして水を混ぜるとよく粘ることから、線香の粘着材として利用されたり、染料にもなったりします。

直径1メートルの大木もあるようですが、本校のタブノキはまだまだ小さいながら、バックスタンド向かって左側に、堅く太めの枝を張って立っています。



(画) 佐橋裕治

クロガネモチ

それでは、バックスタンド向かって右側に目を移しましょう。

とりもちを塗った竿を爪先だって精一杯伸ばしている子供を描いた水墨画を見たことがありますが、竿の先に狙っているのはスズメだったでしょうか、カブトムシだったでしょうか。

とりもちはモチノキの樹皮をすりつぶして作ったものだそうですが、クロガ

ネモチの葉を1、2枚指先で揉んですりつぶすと、ベッタリと糊の感触が残ります。両方は仲間同士で、葉の大きさ、実の大きさが多少異なります。

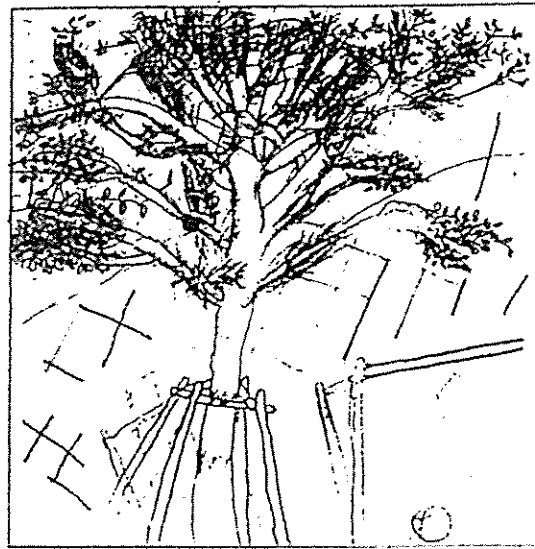
庭木として一般的なのはクロガネモチの方だと思っていますが、それは「金持ち」にイメージが重なるから。でも本当は、日射しを浴びた葉や幹が黒鉄色に輝くからなのです。鯉のいる池の側にも1本あります。

秋、赤く熟した小粒の実が花が咲いたように壮観です。

モチノキも1本、飼育舎脇の畑の隅に植えられています。

学校便り 9月号 (6・9・2)

ニレ



(画) 斎藤 歩

本校の校歌でご存じのように、ウルムスが学名、英語でエルムです。

学校前の道を飾る街路樹がこの並木ですが、学校の運動場、山側の鉄棒脇に1本立っています。校歌、校章のイメージからしても、本校の象徴となるべき樹といえるかも知れません。

外の場所のことで恐縮ですが、子ども植物園(南区六ツ川)のアキニレの樹には驚きました。

この樹としては大木です。よく葉を繁らせた自分の木陰の中に、直径30センチほどの幹がエメラルドグリーンの妖しい光を、、、グリム童話の赤ずきんの森はこんな色をしていたのかも知れない、と思ったりして。と、言うわけで、それがこの樹の本当の姿だと思うのですが、この樹の周りには、大きな円状にツツジが植え込んであって、誰も近づけないようになっているのです。

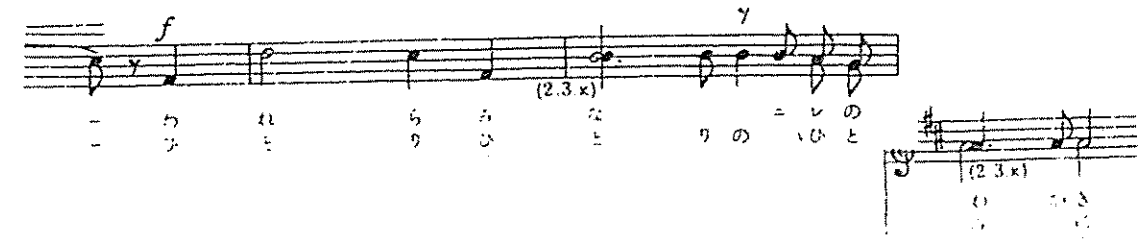
灰褐色の樹皮に緑色の粉を吹くのが特徴で、しかも、鱗のように小さく割れて、簡単に剥ぐことができるのを防ぐためだろうと思います。学校の樹も並木も樹皮は剥がれています。

小さな葉の鋸歯(緑に鋸の刃のようなきざみがある)も際立ち、春の若葉も夏の緑も、秋の鮮やかな紅葉もよし。小枝が多いので葉の落ちた冬のシルエットよし。四季折々に美しい樹です。

アイヌ神話では祖アイヌツクルの母はハルニレだったり、北欧の伝説では、

人類最初の女性エンブラがニレの生まれ変わりだったり、女性に見立てられているお話が多いようです。

ずっと昔、樹皮の繊維で布を織ったり、内皮を挽いて食用にしたり、さまざまな器を作ったりと、暮らしを彩り暮らしを支えていた樹木だったことが、美しくも偉大なる女性のイメージと重なったのではないのでしょうか。



ケヤキ

運動場の山側には、アキニレ、イチョウ、ケヤキが並んでいるのですが、中は飛ばして次回に回します。と、言うのは、ケヤキがニレ科に属しているからです。

鋸歯をもつ葉の様子はよく似ています。

ニレの葉に比べると、大きくて細長い感じですが。

名前の由来は「けやけき木」、ひときわ目立つという意味の古語。

樹齢千年なんていうのは別にしても、冬の真っ赤な夕焼けを背に、スックと立った巨大な竹箒のようなこの樹を見ると、正に、けやけき木。

木目の美しさを生かした家具調度など、日本の生活文化に欠かせない樹木だと思います。

学校のは、、、ン、、、樹形が、、、ちっともケヤキらしくない、、、

でも大丈夫。まちがいなくケヤキだと、植木屋さんの太鼓判です。



(画) 田村良造

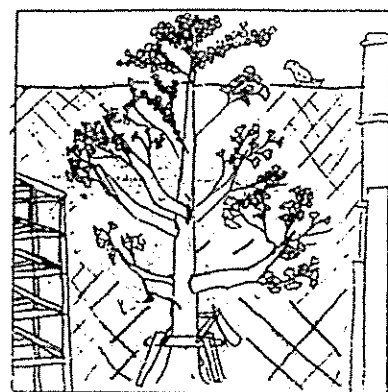
学校便り 10月号 (6・10・1)

イチョウ

蝶々のほね、魚のしっぽ、、、落ち葉を使った造形あそびになくはならな

い葉っぱがこれ。黄葉鮮やかに秋を彩り、冬は黄色い絨毯のように散り敷く落ち葉、四季の変化を映して一年中私たちの目を楽しませてくれます。

雌雄異株、学校のは雄。銀杏はなりません。植栽としては雄の方が好まれるようですが、雌は熟した果肉の悪臭が嫌われるからでしょうか。串刺しの焼いたギンナンで一杯呑むのは好きな人が多いようで、人間は勝手なものです。



(画) 園田 絃章

メタセコイヤ同様太古のままの生き残り、典型的な裸子植物。種子になる胚珠と呼ばれる部分がむき出しになっているのが雌花です。

古木になると、幹や枝から乳房のように根を垂らすものがあり、子授け銀杏と言われるものが全国各地にあるそうです。

カシワ

流水池の給水口付近、岩石園の中にこの樹があります。

柏餅でお馴染みですから、すぐそれとわかります。

冬、葉はすっかり枯れても枝を離れません。春、新芽が生まれるのを待っていたように散っていきます。

昔の人は、この生え替わりを慶祝のしるしとして大切にしましたし、縄文の昔から、葉は皿や包装用にと便利に使われていました。

大きな葉は長さ30センチ幅20センチにもなるそうで、そんな柏餅はいかがですか。特別におめでたいことがある日には。

枯れた葉はセピヤ色のオブジェ、冬の庭にしっとりと趣を添えてくれます。

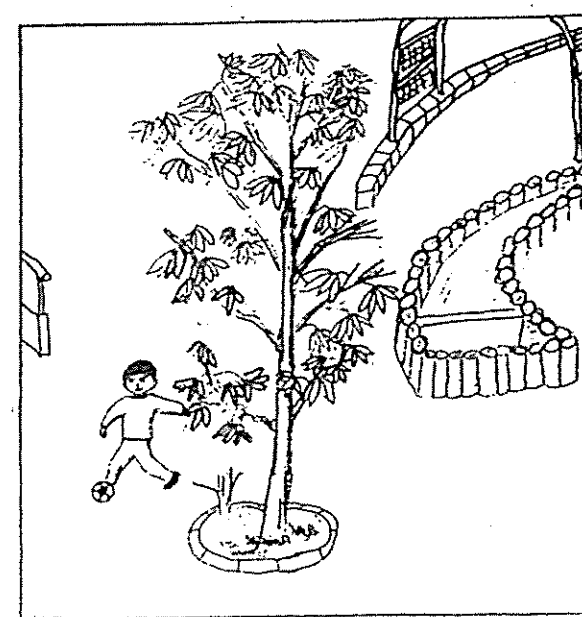
コルク質の樹皮のお陰で山火事や野火に強く、また根が深いので大風に強いというわけで、安全を守る樹とも思われていました。

トチノキ

体育倉庫のすぐ脇にあります。

5~7枚の大きな長卵形の葉が集まって天狗の羽団扇のようです。

栗に似て光沢のある褐色の実をつけますが、この実を粉にして煎餅や餅にした製品もあるそうです。しかし、たいへん苦い渋があり、食用するにはとても手間のかかるものです。また、そのまま空腹のネズミにやれば三日で死んでしまう毒性も持っています。毒性の名はサポニン、適量であれば、風邪のと



(画) 原 令

きの痰を切る薬にもなる性質です。サポニンは水に溶かすと泡立つ性質があるそうで、子供の頃、シャボン玉の液にトチの実を砕いて混ぜていたことを懐かしく思い出しました。

大木になり夏の陽を遮る並木にもよく使われます。パリの並木道で有名なマロニエはセイヨウトチノキ、類似の樹木ということです。

学校便り 11月号 (6・11・1)

ハナミズキ

明治45年、当時の東京市長尾崎行雄がアメリカにサクラの木を贈りました。大正4年、その返礼としてアメリカからハナミズキが贈られて来ました。

その木は、日本に野生するヤマボウシと同類の木でしたから、アメリカヤマボウシと呼ばれました。最近、アメリカハナミズキという特別な品種があるように言われるのは、混同によるもので正しくはないのでしょう。

花の様子は、このシリーズの冒頭に掲げましたヤマボウシと同じで、苞と呼ぶ花弁のような葉の中心に小花が球形に集まっています。秋、小花は先の尖った赤い実になります。

この苞が赤いものをベニバナハナミズキと呼びますが、本校には白と赤と両方のハナミズキがあります。

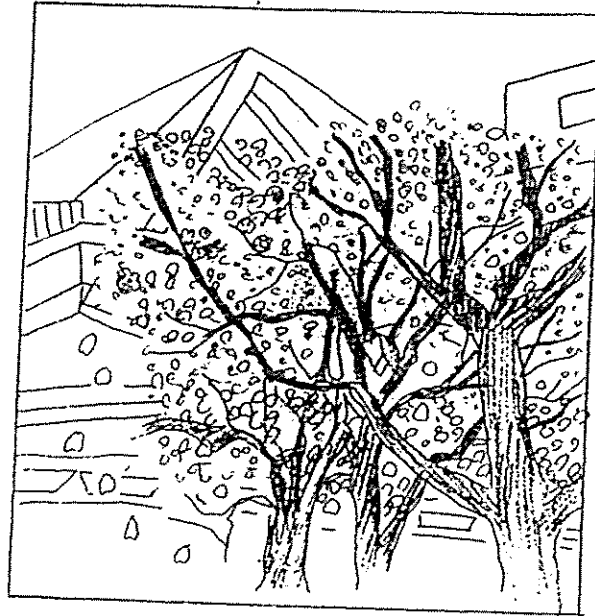
運動場の南側、赤レンガの花壇に並んで立っています。

サクラ

ついでですから、本校のサクラについてもここで触れることにします。

給食室の横の斜面に3本のソメイヨシノが植えられています。それから、東側の斜面、防球ネットの外にも1本。まだ小さいのですが、成長の速い木です

から、やがて、空を覆う花霞を楽しむことができることでしょう。



(画) 穴沢 崇

サクラの開花が春の始まり、この辺では、入学式で学校の始まり。「サクラ前線」という素敵な言葉に心浮き立たせて春を待つ日本人。正に国花です。

サクラは、ヒカンザクラ、ヤマザクラ、サトザクラ、オオシマザクラ、シダレザクラなどなど、種類が多く開花の時期もさまざま、意外に長い期間楽しめる花のように思います。

今、最もポピュラーなソメイヨシノは比較的新しい品種です。古人の愛でたサクラは、ヤマザクラやオオシマザクラなど、清楚な印象の花のようです。

因みに、尾崎行雄がアメリカに贈ったサクラは、一度害虫の被害で全滅して、2年後に贈り直したものが今のポトマック河畔のサクラ並木。

公害に弱い樹木だけに、消毒、施肥、草むしりと大変な手の掛けようとのこと、本校のソメイヨシノがすくすくと育ち、色鮮やかなピンクの花を咲かせることのできる環境であって欲しいものです。

アラカシ

理科室脇の花壇に2本、体育館脇の斜面に2本、流水池の脇に2本。

アラカシは「粗櫨」と書きます。

その葉や枝振りが他の櫨と比べて粗大で堅いことから名付けられたものですが、一年中、よく光る濃い緑の葉を茂らせています。

株立ちし易いことや、萌芽力が強く、どこで切っても新しい枝葉を出してくれます。

陽射しや土質をほとんど選びません。

この逞しい性質を利用して、生け垣の群植にも一本植えにも使われる樹木です。



学校便り 12月号 (6・12・1)

ハクモクレン

魚の形の造形砂場の横、すらりと背の高い樹です。灰白色の幹に黄緑の葉をつけて全体に淡彩の印象を受けます。

春、葉に先がけて枝一杯に咲く花は淡黄白色。大型で肉厚の花は青空によく映えてすがすがしい気分にしてくれます。

紫色の花をつけるのがシモクレン、「モクレン」と呼ぶときはこちらの方を指すようです。

原産は中国、15世紀頃から文人墨客に愛され、屋敷の前庭には欠かすことのできない樹とされました。



(画) 石原 陽子

キンモクセイ

十月初めの穏やかな日だまりにふっと微かな秋の香り。見回せば、樹冠をオレンジ色に染めて咲くキンモクセイ。

通用門脇と百葉箱の隣にあります。

乳白色の花をつけるギンモクセイもあるそうです。

布袋に集めた花とレモンの果肉をはちみつと一緒にホワイトリカーに漬け込むような、モクセイ酒ってどんな味？

ザクロ

キンモクセイの隣のザクロが、直径7cmぐらいの大粒の実をたくさんつけました。たねを口にふくんで甘酸っぱい果汁を楽しみました。

「おそれ入谷の、、、」で有名な鬼子母神は、始め、カリテイモといい、我が子を養うために他人の子を捕って食わせるという鬼神でした。これを知った釈迦は、カリテイモの子の一人を隠してしまいました。我が子を失って嘆き苦しむカリテイモに、釈迦は子を失う親の悲しみを諭し、「人の子の代わりにこれを与えよ。」とザクロの実を渡しました。カリテイモは深く悔い改め、以後善行を尽くして真の神となりました。とは、仏説伝誦。ですから、鬼子母神は右



手にザクロの実を持って子をあやしています。
 この話から「ザクロは人肉の味がするのか。」
 と思う人も出てくるわけで、日本ではザクロの
 木を庭植えにするのを嫌う傾向が見られました。
 これこそ偏見。春の花の美しさといい、熟し
 て割れた実の秋らしい風情といい、四季の変化
 を楽しめる樹木の一つだと思います。

アンズ

早春、淡い桃色の五弁の花は鑑賞用に、初夏、黄色に熟した果実は食用になります。中国から伝来し、唐桃（からもも）と呼ばれました。
 梅に似た実は、そのまま食べてもおいしいですが、大生産地のアメリカなどでは、7割以上、干して保存食にします。
 鯉のいる池の側、まだ小さいのに実はたくさんつきました。

学校便り 1月号 (7・1・9)

お正月ですので、松竹梅と気どってみましょう。

クロマツ

平安時代、正月初めの子の日、野外に出て若菜を摘んだり小松を引いて来て庭に植えたりして遊ぶ行事がありました。「子の日遊び」と呼んでいましたが、そう言えば、百人一首にこれを詠んだものがありましたね。

門松を立てて正月を祝う習慣は、この行事の発展したものです。

樹齡の長さ、趣のある幹の曲がりくあい、一年中変わる事のない濃い緑に、長寿にして「いや栄えよ。」と祈る心を重ねたものでしょう。

マツも種類は多くありますが、学校にはクロマツが3本、緊急車両の進入路に沿って植えられています。

クロマツをオマツとも呼びますが、ほったらかし



(画) 村み裕太

であるにもかかわらず遅く繁っています。因に、メマツはアカマツのこと。
 庭木にすると、樹形を保つために冬には揉み上げ春には芽摘みと結構面倒で、この頃は、若い人には嫌がられるとか。
 学校のは、ただ遅く育てと、野趣を大切にしています。

ササ

本校にはタケは見当たりません。しかし、クロマツの下一面にかわいらしく品の良いササが植られています。

クマザサの一種でヘリトリザサと言います。

ササとタケの区別はあるのでしょうか。丈が低く、茎の細いものをまとめてササと呼んでいるようですし、茎を利用できるのがタケ、葉を利用できるのがササであるとも言えそうです。

ササの葉には防腐作用が認められ、ササ団子、ちまき、等々、数日保存するような食品によく利用されていますね。そう言えば、寿司の間に挟んだあのビニールのぎざぎざも昔はササの葉を細工したものでしたね。

ウメ

うめいちりん いちりんごとの あたたかさ (嵐雪)

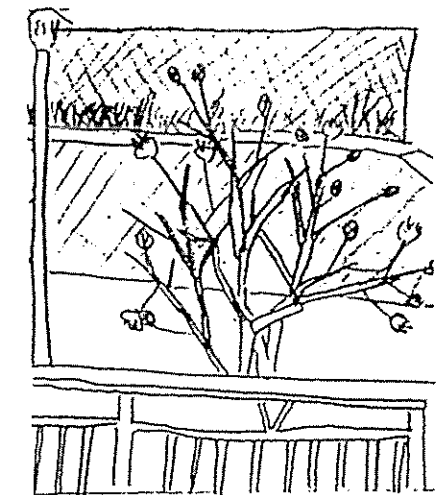
服部嵐雪は芭蕉門下にあつて知識の人として有名です。

この辺では二月の中頃でしょうか。

寒さの最も厳しい中で、蕾がふくらむことは春がふくらむこと。ぼっと弾けた花の暖かさは冬ゆえにひとしおです。「暗香浮動」、夜の闇の中に漂う香にはふと驚きを感じさせられます。日本の名花ウメ。

クロマツの付近に2本と通用門脇1本植えられています。3本とも白梅ですが実はあまり見られません。花粉の少ない種類の梅です。

また、温室の横に、真夏小さな赤い実をつける低木があります。ユスラウメです。この樹木もウメの仲間です。



(画) 毛利俊介

ツバキ



(画) 福田麻紀

木偏に春を書いてツバキと読みます。
日本書紀の昔には「海石榴」を当てているとのことで、いつか「椿」と書くようになったことに、この花への期待や季節感が表れていると思います。

アノコ椿は恋の花、と情熱的でもあります。

学校のツバキは、通用門脇のヤブツバキ。
ツバキは園芸品種として100種を越えるようですが、ヤブツバキはそれらの原種となったものです。

濃い赤色の五弁の花びらは筒形の半開、中に足の長い雄しべがまた筒形に集まっています。

花の散り方から、首が落ちると忌み嫌われた時代もあります。

それでも、本来暖林帯のこの花が、東北や北陸の積雪地帯にまで広がったのは、その強い性質もさることながら、やはり私たちの美意識に強く訴える美しさあるからでしょう。

ところでサザンカは。

本校でも垣根風に群植したサザンカがたくさん見られますが、サザンカもツバキ科。仲間同士です。

花の散り方で区別できます。ぼとりと散るか、はらはら散るか。

サルスベリ (百日紅)

花の咲いている期間が長いので、百日紅と書いています。

もっとも淡紅色だけでなく白色、淡紫色の花をつける木も見られますが、花びらにちりめんじわがかかっていますから、花の塊が大きく膨らんで、夏の青空によく映えて輝きます。

正門脇に1本、歩道の上の斜面に2本。

つるんと滑らかな樹肌なので猿も滑るということでしょう。

明るい赤褐色の幹はすぐそれとわかるユニークな樹木です。

カエデ

冬の気配の中で、山は紅葉に染まって行きます。

「紅葉」を「モミジ」とも読みますが、モミジは紅葉するものの総称です。「カエデ」を「モミジ」と呼ぶこともありますが、それはカエデの紅葉が最も色鮮やかだからでしょう。

サクラが春を代表するなら、紅葉は秋を代表するものです。

サクラの後には次々と色々な花が咲きますが、紅葉の後には枯れ野となります。

そのせいか、私たちの心には、一層色鮮やかな、それでいて静かな印象が刻まれるように思います。

日本全土にその土地に合った種類のカエデが生育しています。植物の世界で、気候風土に合わせて様々な種類があるということは、たいへん珍しい現象なのだそうです。

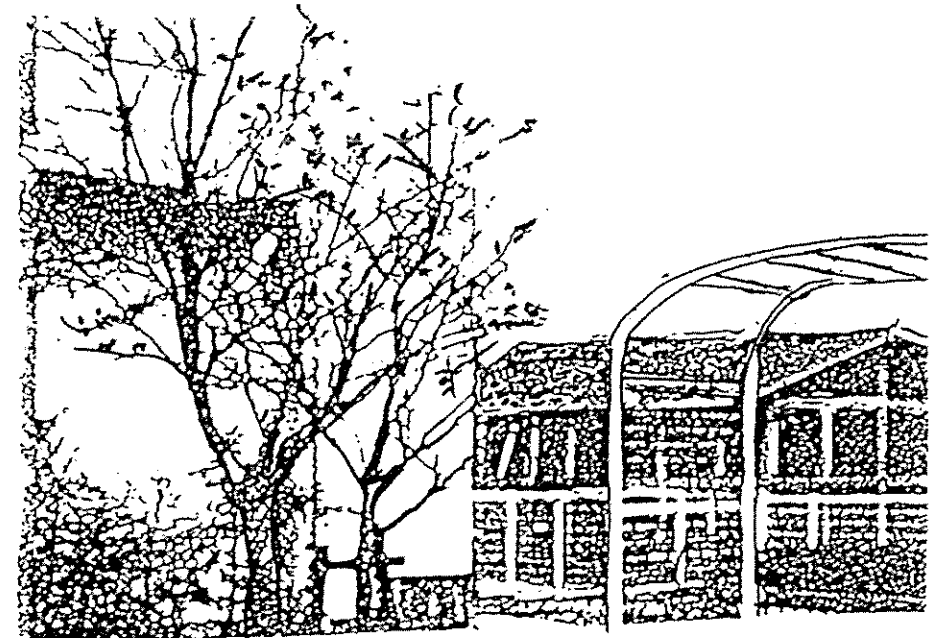
学校には2種類。

職員玄関の横に「新出狸々」という芽立ちから赤いカエデが1本。

飼育舎の付近と理科室脇に、山の中でも一般的にみられる「イロハカエデ」が合わせて4本あります。

「モミジのような手」はかわいらしい赤ちゃんの手、落ち葉の造形遊びの代表格です。

文庫本のしおり代わりにカエデの葉を挟んだ記憶、あなたにもおありでしょうね。



学校便り 3月号 (7・3・1)

ユズリハ

正門横に1本、温室脇に1本。たいへん優美な印象の樹です。
楕円状の大きめな葉は色合いも優しげに1年中緑色です。生え変わりはカシワと同じに慶祝の印。正月の縁起物にもよく用いられています。

6年生の国語の教科書に、河井醉明の詩が載っていますので、ここはそのまま使わせてもらうことにします。

ゆずり葉

子供たちよ。
これはゆずり葉の木です。
このゆずり葉は
新しい葉ができると
入り変わってふるい葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉
こんなに大きい葉でも
新しい葉が出来ると無造作に落ちる
新しい葉にいのちをゆずって――。

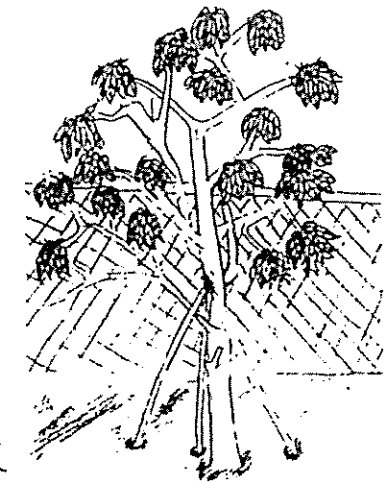
子供たちよ。
お前たちは何もほしがらないでも
すべてのものがお前たちにゆずられるのです。
太陽のめぐるかぎり
ゆずられるものは絶えません。

かがやける大都会も
そっくりお前たちがゆずり受けるのです。
読みきれないほどの書物も
みんなお前たちの手に受け取るのです。
幸福なる子供たちよ
お前たちの手はまだ小さいけれど――。

世のお父さん、お母さんたちは
何一つ持ってゆかない。
みんなお前たちにゆずってゆくために
いのちあるもの、よいもの、美しいものを、
一生懸命に造っています。

今、お前たちは気が付かないけれど
ひとりでのいのちは延びる。
鳥のようにうたい、花のように笑っている間に
気が付いていきます。

そしたら子供たちよ。
もう一度ゆずり葉の木の下に立って
ゆずり葉を見る時が来るでしょう。



(画)
宮崎 綾

お陰様で、学校便りに10回のシリーズを続けることができました。
今回をもちまして「めでたくおひらき」とさせていただきます。
掲載されたものの他にもたくさんの種類の樹木が見られます。

単植されているもの

カクレミノ、シイノキ、ピラカンサ、タイサンボク、モチノキ、ニッケイ、
トサミズキ、ムクゲ、フジ、グミ、ライラック、カシノキ、キンカン、ハギ、
ユスラウメ、モッコク、ミツバツツジ。

群植されているもの

ナンテン、アセビ、シャリンバイ、ムラサキシキブ、ジンチョウゲ、
キンシバイ、クチナシ、アジサイ、ヒイラギ、サザンカ、ドウダンツツジ、
オオムラサキツツジ、キリシマツツジ、ハマヒサカキ、イヌツゲ。

実にたくさんの種類があるものです。これをもっと狭い場所に植え込んだら、
正に植物園の観が致します。

学校の続く限り、子供たちと共に、四季の潤いに満たしてくれることによ
う。